

海上の安全を願って講話等を実施

事務局長 七呂光雄

・安全への取組の切っ掛け

小生が安全に関して人前で講演することじたい多少なりとも気恥ずかしいところである。しかし今振り返って見ると商船高校を卒業し最高の海技免状筆記を取れば後は勉強する事は無いぐらいのつもりで就職し乗船して驚いたのは航海当直、荷役、整備など色々な船務を行っていく中で事故や災害が多く発生するという事実であった。

しかし当時は事故が起きれば“起こした者のミス”という風潮が強い中で、私は一冊の本と巡り会った。労働科学研究所に務めておられた狩野広之氏（1904年生）が執筆された「注意力」という本であった。人間の「注意力の4つの性質」、「認知のミス」、「物忘れ」、「疲労と注意力」、「単調と注意力」等に分かりやすく説明し、注意力の不足によって如何に事故が起きるか、また単に事故を起こした者だけの責任を追及するだけでは防止に繋がらないことが述べられていた。

・Aフェリー時代の安全衛生活動

この本の要点を自分の仕事に生かそうと思いAフェリー社の安全運航に関する部署で働いて来たが、同時に関連業務として船員災害防止協会の東京地区支部や運輸局ご指導の下の東京地方船員労働安全衛生協議会の事務局を担当し、船員労働安全衛生月間では色々な船種ごとの訪船機会に恵まれ各社によって安全への取組に大きな差があることも感じた。

更には船舶で事件事故が発生すれば法治国家である以上、事件当事者の刑事的責任が問われてしまうが、海上保安庁に関して安全対策委員会の委員となったり、海上保安協力員として活動する事で事件事故発生時の刑事・行政的対応も身に付ける事ができた。

過去の経歴について長々となってしまったが、このような経験もあって全船協事務局に入局してからも安全について話をして頂きたいという依頼があり、小生みたいな者の話で良いのかなとも思ったが、これまで航海訓練所練習船、運輸局や旅客船協会の乗組員研修会、更には船社からの講話依頼等で講演を行ってきた。

・Bフェリーでの安全講話

鹿児島にあるBフェリーは、5年位前に熊野灘で自社運航フェリーが強い追い波の中で急激に大傾斜を起こし海岸に任意座礁転覆する事故が発生している。同社とはAフェリー在職時から東京港フェリー安全協議会の事務局長としての立場からお付き合いがあり昨年秋に同社が実施した海難対応訓練に第三者評価を



Bフェリー社 乗組員研修会の参加者

してもらいたいとの依頼で訓練に参加したのに引き続き、今年2月に乗組員研修会を開催するので安全に関しての講演依頼があった。私は昭和50年代に海員組合鹿児島支部に在籍専従し同社の現場というものも把握していたし、それから約35年経って現場の雰囲気かどのように変わっているかという事で興味があった。講演は鹿児島の谷山港に停泊中の「フェリーN」で行ったが、講演前に1時間位時間があつたので船内の検船も行った。昭和50年代は離島航路の客船というイメージを乗組員にも感じたが、今はすっかり長距離フェリーの乗組員というイメージになっていた。会社内に横転したフェリーの写真が額に入れられ飾ってあるが「臭

いものに蓋をする」でない社風は立派であると感じた。この講演が終わったあと韓国で「セウォル号」の大海難が発生したが、何と今回講演した「フェリーN」の先船が韓国に売船され「セウォル号」になっていたのだ。

・練習船銀河丸での特別講義

航海訓練所とは、Aフェリー在職時から安全に関する協定を結びお互いの船を検船したりして安全運航技術を高める お付き合いをしてきた縁もあり全船協に入局してからは実習生に安全に関する特別講義の依頼を受け、これまでも何度か行ってきた。

今回も間もなくホノルル・シンガポールへの遠洋航海を間近に控えた実習生 143 名（商船高専 89 名、大学 29 名、海技大 25 名）に「職場での安全とヒューマンエラー」という題目で 120 分の講演を行った。練習船はあくまでも練習船であり、商船で起きやすい事故について学ぶ機会も少ないが、遠洋航海を終えれば学校を卒業する実習生に生々しい事故の状況を説明したい反面、これから遠洋航海に出航する直前の実習生に恐怖を植え込んでではなく「さじ加減」が難しい。

・アンケート結果

最期に小職の講演に関しBフェリーで行われたアンケート結果を紹介します。

- ・アンケート総数 48 名分
- 甲板部職員 10 名 甲板部部員 13 名
- 機関部職員 8 名 機関部部員 3 名
- 事務部職員 7 名 事務部部員 7 名
- 無記名 4 名



銀河丸特別講義での実習生

- ・「講話の理解度」 全体 70%
職員 62%、部員 78%、甲板部 82%、機関部 45%、事務部 70%
- ・「講話の興味度」 全体 60%、職員 62% 部員 52%、
甲板部 60% 機関部 55% 事務部 30%
- ・「講話についての意見・感想」
 - ・仕事に対しての安全意識がさらに強くなった。
 - ・安全に対する意識や ISO の知識等について深く理解することができた。
 - ・小さな作業でも見方を変えるだけで大きな事故になりかねない事が分かった。
 - ・話が飽きないように工夫されていてとても良かった。
 - ・思い込み防止。エラー防止より事故防止に努める。
 - ・エラーの発生しやすい説明が分かりやすかった。
 - ・固定概念にとらわれずに色々な視点で物事を見なければならぬと感じた。
 - ・見るより聞くよりボディランゲージが大事と思う。
 - ・目の錯覚の恐ろしさを実感
 - ・今回の研修を活かして自分自身の安全レベルの向上を目指します。
 - ・マナー化した状況を作らない。
 - ・ヒヤリハット等の重要性を感じた。